(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-189232
(P2004-189232A)
(43)公開日　平成16年7月8日(2004.7.8)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
B62J 23/00	B62J	23/00	F
B62J 6/00	B62J	23/00	D
B62M 7/02	B62J	6/00	A
	B62M	7/02	Z

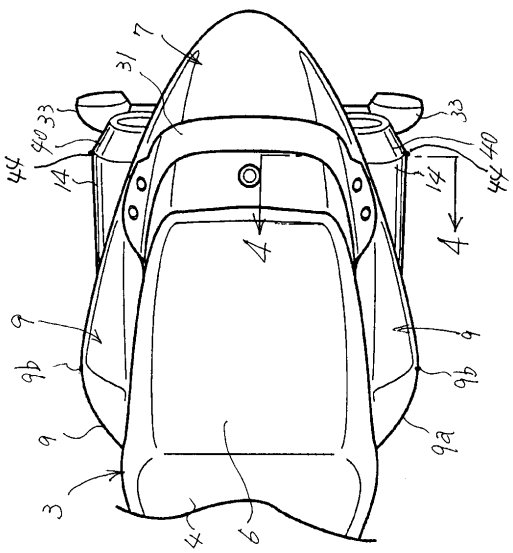
審査請求 有　請求項の数 2　ＯＬ　（全 6 頁）

(21)出願番号　特願2004-104360(P2004-104360)
(22)出願日　平成16年3月31日(2004.3.31)
(62)分割の表示　特願2001-278867(P2001-278867)の分割
原出願日　平成13年8月10日(2001.8.10)

(71)出願人　000005326
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山二丁目１番１号
(74)代理人　100089509
弁理士　小松　清光
(72)発明者　窪島　顕一郎
埼玉県和光市中央１丁目４番１号　株式会社本田技術研究所内
(72)発明者　山住　英明
埼玉県和光市中央１丁目４番１号　株式会社本田技術研究所内

(54)【発明の名称】自動２輪車の車体構造

(57)【要約】
【目的】略半円形断面のマフラーカバーを用いてあたかもマフラーそのもののような外観を与え、意匠的効果を向上させる。
【構成】リヤカウル７の後部を車体中心側へ次第に収束させ、その下方に車体側面を前後方向へ配置されるマフラーの表面のうち、外方側を全長にわたって略半円形断面のマフラーカバー１４で覆い、マフラーカバー１４の上方へ張り出し部９を庇状に張り出させることにより平面視でマフラーを外観させず、かつ後端部下側にリヤウィンカ３３を最大外方突出部４４より側方へ突出させて配置することによりマフラーカバー１４の下側も見えにくくする。また、平面視でリヤカウル下方の車体側面を前後方向へ配置されるマフラー４３の外側表面を覆うマフラーカバー１４の後部側が上方から見え、さらにリヤウィンカ３３もマフラーカバー１４よりさらに側方へ張り出した状態で見えるようにする。
【選択図】　図３



【特許請求の範囲】
【請求項１】
シートと、その下方から左右へ張り出すリヤカウルと、リヤカウル下方の車体側面を横切って前後方向へ長く配設されるマフラーとを備えた自動２輪車において、前記マフラー後部の外側表面をマフラーカバーで覆い、当該マフラーカバー後部の下方にリヤウィンカを配設するとともに、当該リヤウィンカを前記マフラーカバーよりも外方へ張り出させたことを特徴とする自動２輪車の車体構造。
【請求項２】
前記リヤカウルの後部は車体中心側へ次第に収束し、平面視で前記マフラーカバー及び前記リヤウィンカを視認することができることを特徴とする請求項１記載の自動２輪車の車体構造。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は自動２輪車の車体構造に係り、特にマフラーカバーとウィンカの有利な配置構造に関する。
【背景技術】
【０００２】
シート下方の左右等から張り出すリヤカウルを設けた自動２輪車は公知であり、例えば、実開平４－３５９８９号には、リヤカウルをシートの側方へ大きく張り出させ、その内部空間へマフラーを配設することによりリヤカウルの一部がマフラーカバーを兼用することが示されている。また、特開平３－２３７２１１号には、マフラーを略半円状断面のマフラーカバーで覆うことが示されている。
【特許文献１】実開平４－３５９８９号参照
【特許文献２】特開平３－２３７２１１号参照
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
ところで、上記従来例では、リヤカウルの内部空間へマフラーを配設しているので、マフラーカバーをあたかもマフラーそのものと思わせるような意匠的効果を上げられない。また特開平３－２３７２１１号ではマフラーの外観部分だけを略半円状に覆えば軽量化に役立つが、やはりマフラーと一体化しないカバーであることが目立ってしまう。そこで本願発明は、外観部分を覆うマフラーカバーを用いても、カバーであることを認識しにくく、あたかもマフラーであるかのような外観を与えることができるようにすることを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００４】
上記課題を解決するため本願の自動２輪車の車体構造に係る請求項１の発明は、シートと、その下方から左右へ張り出すリヤカウルと、リヤカウル下方の車体側面を横切って前後方向へ長く配設されるマフラーとを備えた自動２輪車において、前記マフラー後部の外側表面をマフラーカバーで覆い、当該マフラーカバー後部の下方にリヤウィンカを配設するとともに、当該リヤウィンカを前記マフラーカバーよりも外方へ張り出させたことを特徴とする。
請求項２の発明は、上記請求項１において、前記リヤカウルの後部を車体中心側へ次第に収束させ、平面視で前記マフラーカバー及び前記リヤウィンカを視認することができるようにしたことを特徴とする。
【発明の効果】
【０００５】
請求項１の発明によれば、マフラーカバーがマフラーの外観部分だけを覆うため、全周を覆った場合と比べて軽量化できる。しかも、このマフラーカバーでマフラーの後部まで

覆うとともに、平面視でマフラーが見える部分はマフラーカバーで覆い、かつマフラーの後端部下方にリヤウィンカを配設し、このリヤウィンカをマフラーカバーよりもさらに外方へ突出させたので、マフラーカバーの下側がリヤウィンカで見えにくくなる。したがって、マフラーカバーをカバーと認識しにくくなり、あたかもマフラーそのものと見せることができるので、意匠的効果に優れたものになる。

【０００６】

請求項２によれば、リヤカウルの後部を車体中心側へ次第に収束させたので、平面視でリヤカウル下方の車体側面を前後方向へ配置されるマフラーの外側表面を覆うマフラーカバーの後部側が上方から見え、さらにリヤウィンカもマフラーカバーよりさらに側方へ張り出した状態で見えるようになる。

【発明を実施するための最良の形態】

【０００７】

以下、図面に基づいて一実施例を説明する。図１は本実施例の適用された自動２輪車の左側面図、図２はその平面図である。これらの図において、前輪１と後輪２の間にダブルシート３が配置され、その運転席４の前方に燃料タンク５、同乗者席６の左右両側から後方にかけてリヤカウル７が設けられ、燃料タンク５とリヤカウル７は運転席４を挟んで前後に配置され、かつそれぞれの左右両側には、張り出し部８，９が形成されている。

【０００８】

図２に示すように、燃料タンク５の平面視形状は前半部側が略菱形をなし、張り出し部８の輪郭をなす稜線８ａは、前端側から後方へ向かって最大突出部８ｂまで次第に側方へ広がる曲線をなし、最大突出部８ｂから後方は逆に車体中心側へ次第に収束する変化をなし、張り出し部８はその基部である燃料タンク５の一般側面８ｃよりも大きく側方へ張り出している。またリヤカウル７の張り出し部９もその輪郭線をなす稜線９ａが最大突出部９ｂまでは前方から後方へ向かって次第に広がり、最大突出部９ｂから後方は逆に車体中心側へ次第に収束する変化をなす。

【０００９】

燃料タンク５の下方には、４サイクル水冷式の直列４気筒エンジン１０が配置され、エアクリーナ１１及び燃料噴射装置１２を介して吸気され、排気ガスは排気管１３及びマフラー１４を介して排気される。排気管１３はエンジン１０の下方を通ってからピボットプレート１７の後方を上方へ立ち上がり、側面視でリヤフォーク１８と交差した後でリヤカウル７下方の車体左右に配置される一対のマフラーへ枝分かれして接続する。左右の各マフラーは表面の外観される側をマフラーカバー１４で覆われている。

【００１０】

燃料噴射装置１２の一部は燃料タンクの底部後部に近接してその下方へ配置される噴射装置カバー１５で覆われ、エアクリーナ１１の後部側側面サイドカバー１６で覆われる。サイドカバー１６は運転席４の下方へ延びてその底部と接している。

【００１１】

サイドカバー１６の下方かつエンジン１０の後方にはピボットプレート１７が上下方向へ長く配置され、ここにピボット軸１７ａでリヤフォーク１８の前端が揺動自在に支持され、その上下動はリヤクッション１９によって緩衝される。

【００１２】

ピボットプレート１７の後部には側面視略Ｙ字状をなすステップホルダ２０の前端部が取り付けられ後部側は側面視で後輪２へ重なり、かつ同乗者席６の下方となる位置まで後方へ長く延出し、ここに同乗者用のピリオンステップ２１が折りたたみ自在に取り付けられている。

【００１３】

なお、図中の符号２２はフロントフォーク、２３はヘッドパイプ、２４はヘッドライト、２５はメーター、２６はハンドル、２７は車体フレーム、２８はライダー用のライダーステップ、２９は可動リヤフェンダ、３０はチェーンケース、３１はグリップバー、３２はテールランプ、３３はリヤウィンカ、３４はライセンスプレート、３５はライダー、３

６はその膝である。

【００１４】

次に、マフラーカバーについて説明する。図３は同乗者席６を含む車体後部側の平面視図、図４は図３の４－４線断面図である。図３に明らかなように、リヤカウル７の後部を車体中心側へ次第に収束させ、リヤカウル７の張り出し部９が最大突出部９ｂより後方では次第に張り出し量を少なくするため、リヤカウル７下方の車体側面を前後方向へ配置されるマフラーが本来ならば視認されるようになる、しかし、この部分はすべてマフラーカバー１４で覆われ、上方から見える部分はマフラーカバー１４のみである。

【００１５】

マフラーカバー１４の後端は縮径するテーパー部４０をなし、マフラーの後端面側まで覆っている。また、マフラーカバー１４の後端であるテーパー部４０の下側に近接してリヤウィンカ３３が位置し、リヤウィンカ３３はマフラーカバー１４の最大側方突出部よりもさらに側方へ張り出している。

【００１６】

図４に示すように、マフラーカバー１４は、樹脂又は金属等で断熱性に優れた適宜材料からなる断面略半円状をなし、上側の周方向端部４１は、張り出し部９の先端となる稜線９ａよりも寸法ａだけ車体中心側へ入り込んでおり、マフラー４３の中心よりもさらに車体内方側に位置する。

【００１７】

下側の周方向端部４２は、マフラー４３の下側へ回り込んでいる。マフラーカバー１４の最大外方突出部４４よりも寸法ｂだけ内方へ位置し、マフラー４３の中心よりも外側になっている。また、稜線９ａの位置とも重なり、平面視で張り出し部９により下側の周方向端部４２が見えないようになっている。さらに、リヤウィンカ３３は最大外方突出部４４よりも外方へ張り出している。

【００１８】

なお、マフラーカバー１４は図１に示すように、ほぼ運転席４の後部下方かつリヤクッション１９近傍位置からリヤウィンカ３３の位置まで延びており、マフラーの全長を覆っている。

【００１９】

次に、本実施例の作用を説明する。マフラーカバー１４がマフラー４３の外観部分だけを覆うため、全周を覆った場合と比べて明らかに軽量化できる。しかも、このマフラーカバー１４でマフラー４３の後端まで覆い、後端部をテーパー部４０としてマフラー４３の後端部のような形状にするとともに、平面視でマフラー４３が見えるべき部分はすべてマフラーカバー１４で覆い、かつマフラー４３の後端部下方に近接してリヤウィンカ３３を配設し、このリヤウィンカ３３をマフラーカバー１４の最大外方突出部４４よりもさらに外方へ突出させたので、マフラーカバー１４の下側がリヤウィンカ３３で見えにくくなる。したがって、マフラーカバー１４を見てもカバーであると直ちには認識しにくくなり、あたかもマフラー４３そのものであるように見せることができるので、意匠的効果に優れたものになる。

【００２０】

また、リヤカウル７の後部を車体中心側へ次第に収束させたので、平面視でリヤカウル下方の車体側面を前後方向へ配置されるマフラー４３の外側表面を覆うマフラーカバー１４の後部側が上方から見え、さらにリヤウィンカ３３もマフラーカバー１４よりさらに側方へ張り出した状態で見えるようにすることができる。

【図面の簡単な説明】

【００２１】

【図１】実施例の適用された自動２輪車の側面図

【図２】同上平面図

【図３】同乗者席を含む車体後部の平面図

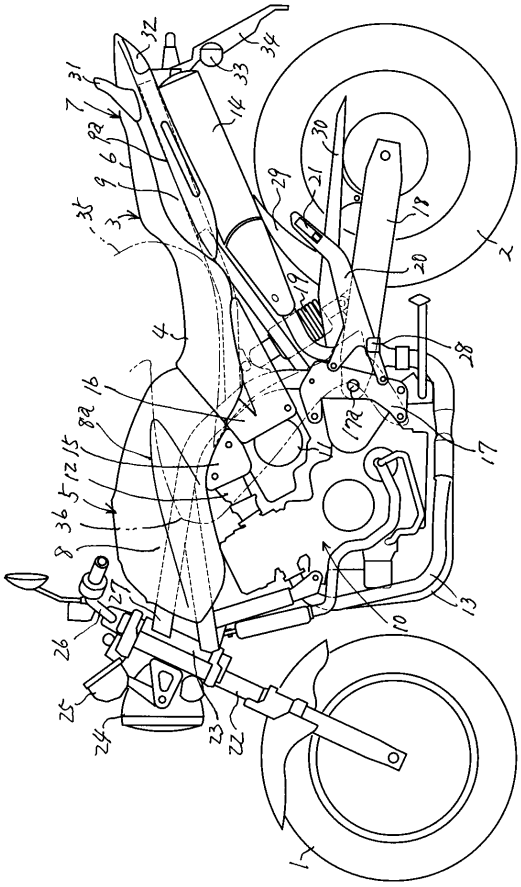
【図４】図３の４－４線断面図

【符号の説明】

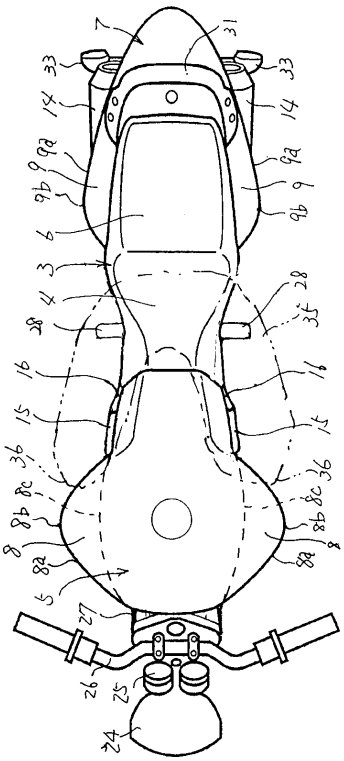
【００２２】

３：ダブルシート、４：運転席、６：同乗者席、７：リヤカウル、９：張り出し部、１４：マフラーカバー、３３：リヤウィンカ、４０：テーパー部、４３：マフラー、４４：最大外方突出部

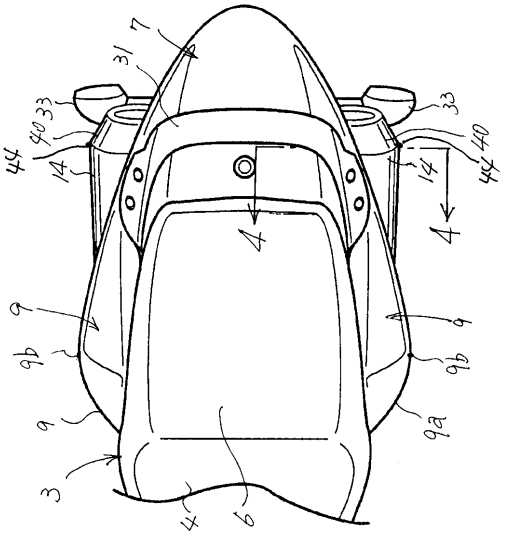
【図１】



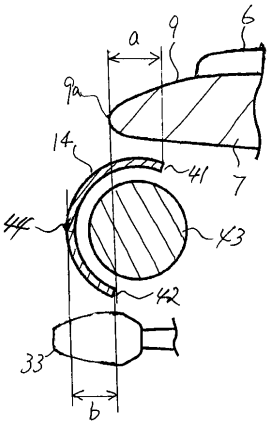
【図２】



【図３】


31
7
33
40
44
14
33
14
42
40
4
4
9
9b
9
9b
9
9a
3
4
6

【図４】


a
9
6
9a
14
41
7
44
43
42
33
b